

優秀(名城大学附属 石橋知佳さん) おすしがふくをかいにきた

雑誌の表紙を模したデザイン。課題図書が「見立て」の絵本であるが、この POP 自体が雑誌に見立てられたものになっている。ファッション雑誌にありそうなポーズと構図がとぼけていて面白みがある。色合いもすっきりしており、うるさくない。センスが光る作品である。

優秀(名城大学附属 酒谷直志さん) おすしがふくをかいにきた

書籍の中に並べるとぎょっとするような生々しい絵が、非常に強い印象を与えている。ミニチュアを使う作品が多い中で、本作は平板な絵のみであるのに、なまもののようなインパクトが際立っている。コピーも悪くなく、文字の形も全体によくマッチしている。書籍になまものというミスマッチが、大変うまく強調されている作品である。

優秀(横浜市立みなと総合 加藤颯一さん) おすしがふくをかいにきた

シンプルな構造だが非常に玄人くさい、POP の王道を行く作品と言える。キャッチコピーは駄洒落であるが、こうしたちょっとした言葉ひとつを前面に打ち出して勝負に出るのが POP の醍醐味と言えよう。全体の構図もシンプルながら平板に陥らず、動きも感じられ、バランスもよい。秀作である。

優秀(津島北(津島北翔) 池田珠優さん) トルコ怪獣記

よく見ると非常に手の込んだ作り込みの優れた作品である。キャッチコピーはないものの、POP らしい道具立てで目を引く仕上がりになっている。古びた探検地図のような風合いを出すのに紙をかなり加工してあり、同様の作品に比べ質感が際立っている。細かい作り込みが全体の印象を強めている労作である。

優秀(犬山 齋藤楓さん) トルコ怪獣記

冊子の形の作品はときどき見られるが、本作は「調査報告書」の形で実際に内容も報告書の体を成しており、アイデアを最後まで貫徹した点が素晴らしい。POP としてどこまで許容されるかは問題ではあるが、冊子を開きたくなる誘惑があり、開いたときに期待外れにならない作り込みになっている。本のそばにぶら下げるなどの使用法になろうか、実際に試してみたい作品である。

優秀(島田 増田彩里さん) トルコ怪獣記

淡白な作りに見えるが、周囲に配された魚の造形が何とも言えない質感をもって迫ってくる。全体が絶妙にくすんだ感じで古びた懐かしいような雰囲気を出している。タイトルを記した文字の造形も素晴らしいが、その文字は版画様の印刷のような鋭いキレがあり、

全体の雰囲気を際立たせている。存在感のある作品である。

優秀(緑丘 平野真秀さん) ヴィクトリア朝時代のインターネット

人物の絵がなんともおしゃれで目を引く。白を基調とするシンプルな配色もよい。機械がケーブル敷設船なのは見てもわからないが、メカニカルな何かの装置と人物の組み合わせが良い雰囲気を出している。言葉も面白い。文字が、手書き要素が若干強すぎ、もう少し統一感が出せると良かったように思われるが、装飾的でおしゃれ感を増しているところはよくマッチしている。センスの良い作品。

審査員特別(島田 佐藤萌々奈さん)

引っ張ることで別の図柄が出てくるギミックはよくあるが、この作品は見えている図が色付きの服を着た図に変わるという変化を見せる。絵本にはときどき使われるテクニックであるが、当コンテストでは初見で、知らずに引っ張った審査員は大変驚いた。絵や文字はかなり簡単に作られているが、逆にシンプルだからアイデアが光るのかもしれない。ともかくこのアイデアを取り入れたことが素晴らしい。まだまだ未見のアイデアがあることを教えてくれた逸品。